

[1] (1) 極座標が次のような点の位置を図示せよ。また，直交座標を求めよ。
(ア) $\left(2, \frac{3}{4}\pi\right)$ (イ) $\left(3, -\frac{\pi}{2}\right)$ (ウ) $\left(2, \frac{17}{6}\pi\right)$ (エ) $\left(4, -\frac{10}{3}\pi\right)$
(2) 直交座標が次のような点の極座標 (r, θ) ($0 \leq \theta < 2\pi$) を求めよ。
(ア) $(1, \sqrt{3})$ (イ) $(-2, -2)$ (ウ) $(-3, \sqrt{3})$

[2] O を極とする極座標に関して，3 点 A $\left(6, \frac{\pi}{3}\right)$ ，B $\left(4, \frac{2}{3}\pi\right)$ ，C $\left(2, -\frac{3}{4}\pi\right)$ が与えられているとき，次のものを求めよ。
(1) 線分 AB の長さ (2) $\triangle OAB$ の面積 (3) $\triangle ABC$ の面積

[3] 極座標に関して，次の円・直線の極方程式を求めよ。ただし， $a > 0$ とする。
(1) 中心が点 (a, α) ($0 < \alpha < \pi$) で，極 O を通る円
(2) 点 A $(a, 0)$ を通り，始線 OX とのなす角が α $\left(\frac{\pi}{2} < \alpha < \pi\right)$ である直線

- 4
- (1) 楕円 $2x^2+3y^2=1$ を極方程式で表せ。

(2) 次の極方程式はどのような曲線を表すか。直交座標の方程式で答えよ。
- (ア) $\frac{1}{r}=\frac{1}{2}\cos\theta+\frac{1}{3}\sin\theta$

(イ) $r=\cos\theta+\sin\theta$
- (ウ) $r^2(1+3\cos^2\theta)=4$

(エ) $r^2\cos2\theta=r\sin\theta(1-r\sin\theta)+1$

- 5
- (1) 極座標において、点 $A(3,\pi)$ を通り始線に垂直な直線を g とする。極 O と直線 g からの距離の比が次のように一定である点 P の軌跡の極方程式を求めよ。

(ア) $1:2$ (イ) $1:1$

(2) 次の極方程式の表す曲線を、直交座標の方程式で表せ。
- (ア) $r=\frac{4}{1-\cos\theta}$

(イ) $r=\frac{\sqrt{6}}{2+\sqrt{6}\cos\theta}$

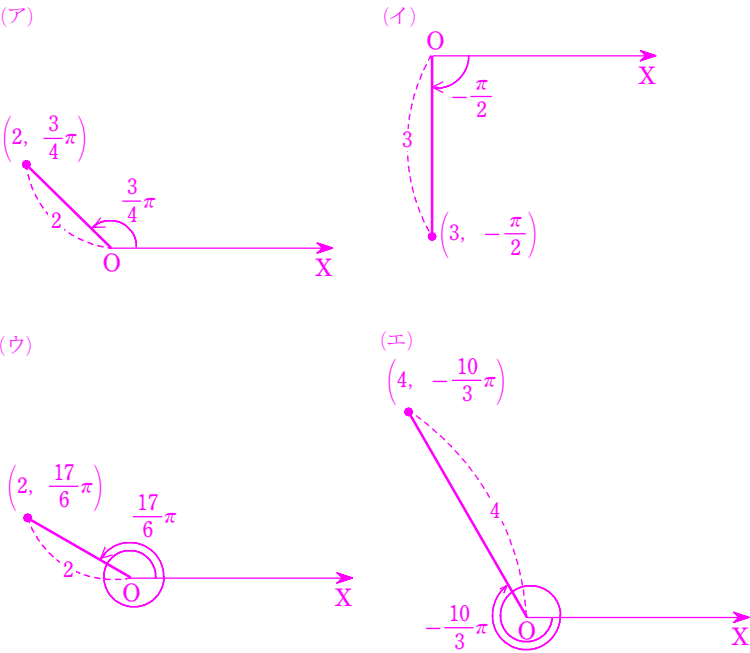
(ウ) $r=\frac{1}{2+\sqrt{3}\cos\theta}$

- 6
- 2次曲線の1つの焦点 F を通る弦の両端を P, Q とするとき、 $\frac{1}{FP}+\frac{1}{FQ}$ は、弦の方向に関係なく一定であることを証明せよ。

- 1
- (1) 極座標が次のような点の位置を図示せよ。また、直交座標を求めよ。
(ア) $\left(2, \frac{3}{4}\pi\right)$ (イ) $\left(3, -\frac{\pi}{2}\right)$ (ウ) $\left(2, \frac{17}{6}\pi\right)$ (エ) $\left(4, -\frac{10}{3}\pi\right)$
(2) 直交座標が次のような点の極座標 (r, θ) ($0 \leq \theta < 2\pi$) を求めよ。
(ア) $(1, \sqrt{3})$ (イ) $(-2, -2)$ (ウ) $(-3, \sqrt{3})$

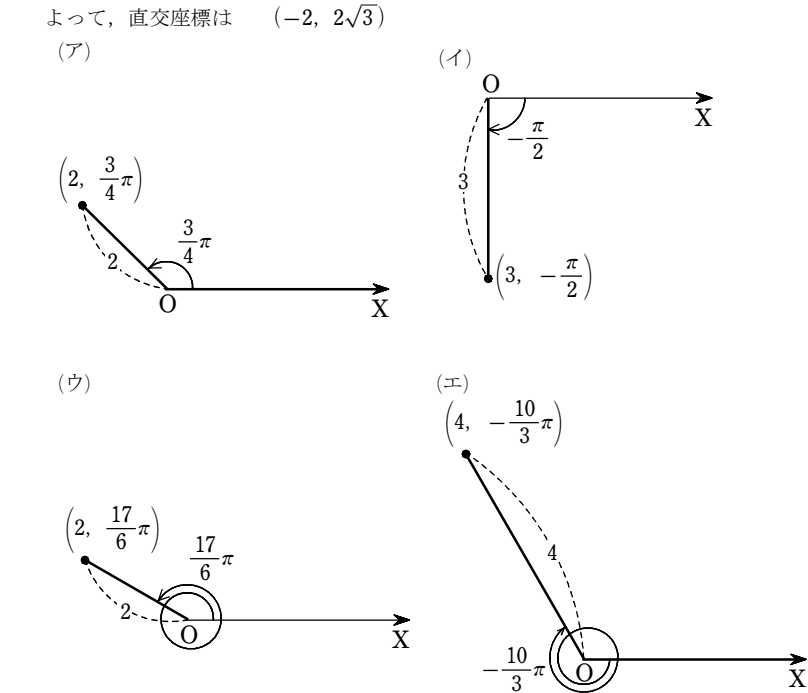
【解答】 (1) (ア) [図]; $(-\sqrt{2}, \sqrt{2})$ (イ) [図]; $(0, -3)$
(ウ) [図]; $(-\sqrt{3}, 1)$ (エ) [図]; $(-2, 2\sqrt{3})$

(2) (ア) $\left(2, \frac{\pi}{3}\right)$ (イ) $\left(2\sqrt{2}, \frac{5}{4}\pi\right)$ (ウ) $\left(2\sqrt{3}, \frac{5}{6}\pi\right)$



【解説】

- (1) (ア) 図(ア) また $x = 2\cos\frac{3}{4}\pi = -\sqrt{2}, y = 2\sin\frac{3}{4}\pi = \sqrt{2}$
よって、直交座標は $(-\sqrt{2}, \sqrt{2})$
(イ) 図(イ) また $x = 3\cos\left(-\frac{\pi}{2}\right) = 0, y = 3\sin\left(-\frac{\pi}{2}\right) = -3$
よって、直交座標は $(0, -3)$
(ウ) 図(ウ) また $x = 2\cos\frac{17}{6}\pi = -\sqrt{3}, y = 2\sin\frac{17}{6}\pi = 1$
よって、直交座標は $(-\sqrt{3}, 1)$
(エ) 図(エ) また $x = 4\cos\left(-\frac{10}{3}\pi\right) = -2, y = 4\sin\left(-\frac{10}{3}\pi\right) = 2\sqrt{3}$



- (2) (ア) $r = \sqrt{1^2 + (\sqrt{3})^2} = 2$ よって $\cos\theta = \frac{1}{2}, \sin\theta = \frac{\sqrt{3}}{2}$
 $0 \leq \theta < 2\pi$ であるから $\theta = \frac{\pi}{3}$ ゆえに $\left(2, \frac{\pi}{3}\right)$
(イ) $r = \sqrt{(-2)^2 + (-2)^2} = 2\sqrt{2}$
よって $\cos\theta = \frac{-2}{2\sqrt{2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}}, \sin\theta = \frac{-2}{2\sqrt{2}} = -\frac{1}{\sqrt{2}}$
 $0 \leq \theta < 2\pi$ であるから $\theta = \frac{5}{4}\pi$ ゆえに $\left(2\sqrt{2}, \frac{5}{4}\pi\right)$
(ウ) $r = \sqrt{(-3)^2 + (\sqrt{3})^2} = 2\sqrt{3}$
よって $\cos\theta = \frac{-3}{2\sqrt{3}} = -\frac{\sqrt{3}}{2}, \sin\theta = \frac{\sqrt{3}}{2\sqrt{3}} = \frac{1}{2}$
 $0 \leq \theta < 2\pi$ であるから $\theta = \frac{5}{6}\pi$ ゆえに $\left(2\sqrt{3}, \frac{5}{6}\pi\right)$

- 2
- O を極とする極座標に関して、3 点 $A\left(6, \frac{\pi}{3}\right), B\left(4, \frac{2}{3}\pi\right), C\left(2, -\frac{3}{4}\pi\right)$ が与えられているとき、次のものを求めよ。

- (1) 線分 AB の長さ (2) $\triangle OAB$ の面積 (3) $\triangle ABC$ の面積

【解答】 (1) $2\sqrt{7}$ (2) $6\sqrt{3}$ (3) $\frac{5\sqrt{2} + 12\sqrt{3} - \sqrt{6}}{2}$

【解説】

- (1) $\triangle OAB$ において
 $OA = 6, OB = 4,$
 $\angle AOB = \frac{2}{3}\pi - \frac{\pi}{3} = \frac{\pi}{3}$
よって、余弦定理により
 $AB^2 = 6^2 + 4^2 - 2 \cdot 6 \cdot 4 \cos \frac{\pi}{3} = 28$
ゆえに $AB = \sqrt{28} = 2\sqrt{7}$
(2) $\triangle OAB$ の面積を S_1 とすると
 $S_1 = \frac{1}{2} \cdot 6 \cdot 4 \sin \frac{\pi}{3} = 6\sqrt{3}$
(3) $\angle BOC = \frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{4}, \angle COA = \frac{2}{3}\pi + \frac{\pi}{4}$ で
あるから、 $\triangle OBC, \triangle OAC$ の面積をそれぞれ S_2, S_3 とすると
 $S_2 = \frac{1}{2} \cdot 4 \cdot 2 \sin\left(\frac{\pi}{3} + \frac{\pi}{4}\right) = 4\left(\sin \frac{\pi}{3} \cos \frac{\pi}{4} + \cos \frac{\pi}{3} \sin \frac{\pi}{4}\right) = \sqrt{6} + \sqrt{2}$
 $S_3 = \frac{1}{2} \cdot 6 \cdot 2 \sin\left(\frac{2}{3}\pi + \frac{\pi}{4}\right) = 6\left(\sin \frac{2}{3}\pi \cos \frac{\pi}{4} + \cos \frac{2}{3}\pi \sin \frac{\pi}{4}\right) = \frac{3(\sqrt{6} - \sqrt{2})}{2}$
よって、 $\triangle ABC$ の面積を S とすると
 $S = S_1 + S_2 - S_3 = 6\sqrt{3} + (\sqrt{6} + \sqrt{2}) - \frac{3(\sqrt{6} - \sqrt{2})}{2} = \frac{5\sqrt{2} + 12\sqrt{3} - \sqrt{6}}{2}$

【別解】 3 点 A, B, C を直交座標で表すと
 $A(3, 3\sqrt{3}), B(-2, 2\sqrt{3}), C(-\sqrt{2}, -\sqrt{2})$
ゆえに $\overrightarrow{AB} = (-5, -\sqrt{3}), \overrightarrow{AC} = (-\sqrt{2} - 3, -\sqrt{2} - 3\sqrt{3})$
よって $S = \frac{1}{2} |-5(-\sqrt{2} - 3\sqrt{3}) - (-\sqrt{3})(-\sqrt{2} - 3)| = \frac{5\sqrt{2} + 12\sqrt{3} - \sqrt{6}}{2}$

- 3
- 極座標に関して、次の円・直線の極方程式を求めよ。ただし、 $a > 0$ とする。

- (1) 中心が点 (a, α) ($0 < \alpha < \pi$) で、極 O を通る円
(2) 点 A $(a, 0)$ を通り、始線 OX とのなす角が α ($\frac{\pi}{2} < \alpha < \pi$) である直線

【解答】 (1) $r = 2a \cos(\theta - \alpha)$ (2) $r \sin(\theta - \alpha) = -a \sin \alpha$

【解説】

O を極とし、図形上の点 P の極座標を (r, θ) とする。

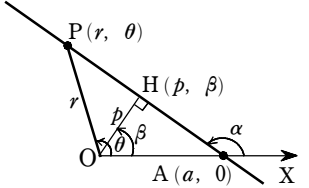
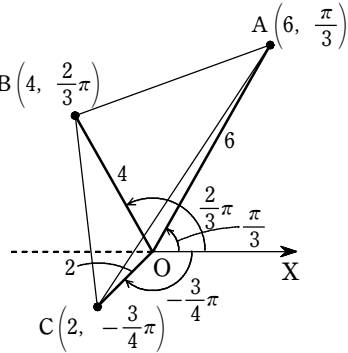
- (1) A $(2a, \alpha)$ とすると、直角三角形 OAP において
 $OP = OA \cos(\theta - \alpha)$
よって
 $r = 2a \cos(\theta - \alpha)$

- (2) 極 O から直線に垂線 OH を下ろし、H (p, β) ,
 $p > 0$ とすると $r \cos(\theta - \beta) = p$ ①
ここで、直角三角形 OHA において

$$\beta = \alpha - \frac{\pi}{2} \quad \text{..... ②}$$

$$\text{また } p = a \cos \beta \quad \text{..... ③}$$

① に ②, ③ を代入して $r \sin(\theta - \alpha) = -a \sin \alpha$



- 4 (1) 楕円 $2x^2+3y^2=1$ を極方程式で表せ。
- (2) 次の極方程式はどのような曲線を表すか。直交座標の方程式で答えよ。
- (ア) $\frac{1}{r}=\frac{1}{2}\cos\theta+\frac{1}{3}\sin\theta$ (イ) $r=\cos\theta+\sin\theta$
- (ウ) $r^2(1+3\cos^2\theta)=4$ (エ) $r^2\cos 2\theta=r\sin\theta(1-r\sin\theta)+1$

解答 (1) $r^2(2+\sin^2\theta)=1$

(2) (ア) 直線 $3x+2y=6$ (イ) 円 $\left(x-\frac{1}{2}\right)^2+\left(y-\frac{1}{2}\right)^2=\frac{1}{2}$

(ウ) 楕円 $x^2+\frac{y^2}{4}=1$ (エ) 放物線 $y=x^2-1$

解説

(1) $2x^2+3y^2=1$ に $x=r\cos\theta$, $y=r\sin\theta$ を代入すると

$$2r^2\cos^2\theta+3r^2\sin^2\theta=1$$

よって $2r^2(1-\sin^2\theta)+3r^2\sin^2\theta=1$

ゆえに $r^2(2+\sin^2\theta)=1$

(2) (ア) 両辺に $6r$ を掛けて $6=3r\cos\theta+2r\sin\theta$

ゆえに $6=3x+2y$ よって、直線 $3x+2y=6$ を表す。

(イ) 両辺に r を掛けて $r^2=r\cos\theta+r\sin\theta$

ゆえに $x^2+y^2=x+y$

よって、円 $\left(x-\frac{1}{2}\right)^2+\left(y-\frac{1}{2}\right)^2=\frac{1}{2}$ を表す。

(ウ) 与式から $r^2+3(r\cos\theta)^2=4$

ゆえに $x^2+y^2+3x^2=4$

よって、楕円 $x^2+\frac{y^2}{4}=1$ を表す。

(エ) 与式から $r^2(\cos^2\theta-\sin^2\theta)=r\sin\theta(1-r\sin\theta)+1$

よって $(r\cos\theta)^2-(r\sin\theta)^2=r\sin\theta(1-r\sin\theta)+1$

ゆえに $x^2-y^2=y(1-y)+1$

よって、放物線 $y=x^2-1$ を表す。

- 5 (1) 極座標において、点 A (3, π) を通り始線に垂直な直線を g とする。極 O と直線 g からの距離の比が次のように一定である点 P の軌跡の極方程式を求めよ。

(ア) 1:2 (イ) 1:1

(2) 次の極方程式の表す曲線を、直交座標の方程式で表せ。

(ア) $r=\frac{4}{1-\cos\theta}$ (イ) $r=\frac{\sqrt{6}}{2+\sqrt{6}\cos\theta}$ (ウ) $r=\frac{1}{2+\sqrt{3}\cos\theta}$

解答 (1) (ア) $r=\frac{3}{2-\cos\theta}$ (イ) $r=\frac{3}{1-\cos\theta}$

(2) (ア) 放物線 $y^2=8(x+2)$ (イ) 双曲線 $\frac{(x-3)^2}{6}-\frac{y^2}{3}=1$

(ウ) 楕円 $\frac{(x+\sqrt{3})^2}{4}+y^2=1$

解説

- (1) 点 P の極座標を (r, θ) とし、P から直線 g に下ろした垂線を PH とすると

(ア) PO:PH=1:2 (イ) PO:PH=1:1

(ア), (イ) を満たす点 P は直線 g の右側にあり

PO= r , PH= $3+r\cos\theta$

(ア) $\frac{PO}{PH}=\frac{1}{2}$ であるから $\frac{r}{3+r\cos\theta}=\frac{1}{2}$

よって $2r=3+r\cos\theta$

ゆえに $r=\frac{3}{2-\cos\theta}$

(イ) $\frac{PO}{PH}=1$ であるから $\frac{r}{3+r\cos\theta}=1$

よって $r=3+r\cos\theta$

ゆえに $r=\frac{3}{1-\cos\theta}$

(2) (ア) 与式から $r-r\cos\theta=4$ ゆえに $r-x=4$

よって $r=x+4$ 両辺を平方して $r^2=(x+4)^2$

ゆえに $x^2+y^2=(x+4)^2$

したがって、放物線 $y^2=8(x+2)$ を表す。

(イ) 与式から $2r+\sqrt{6}r\cos\theta=\sqrt{6}$ ゆえに $2r+\sqrt{6}x=\sqrt{6}$

よって $2r=\sqrt{6}(1-x)$ 両辺を平方して $4r^2=6(1-x)^2$

ゆえに $2(x^2+y^2)=3(1-x)^2$ よって $x^2-6x-2y^2=-3$

したがって、双曲線 $\frac{(x-3)^2}{6}-\frac{y^2}{3}=1$ を表す。

(ウ) 与式から $2r+\sqrt{3}r\cos\theta=1$ ゆえに $2r+\sqrt{3}x=1$

よって $2r=1-\sqrt{3}x$ 両辺を平方して $4r^2=(1-\sqrt{3}x)^2$

ゆえに $4(x^2+y^2)=(1-\sqrt{3}x)^2$ よって $x^2+2\sqrt{3}x+4y^2=1$

したがって、楕円 $\frac{(x+\sqrt{3})^2}{4}+y^2=1$ を表す。

- 6 2次曲線の1つの焦点 F を通る弦の両端を P, Q とするとき、 $\frac{1}{FP}+\frac{1}{FQ}$ は、弦の方向に関係なく一定であることを証明せよ。

解答 略

解説

焦点 F を極とし、極に近い頂点を通る半直線 FX を始線とする極座標を考えると、2次曲線の極方程式は

$r(1+e\cos\theta)=l$ ($e>0$, $l>0$) とおける。

P, Q は極を通る直線上にあるから、P (r_1, α) とす

ると、Q ($r_2, \alpha+\pi$) と表され ($r_1>0$, $r_2>0$)

FP= r_1 , FQ= r_2

また $\cos(\alpha+\pi)=-\cos\alpha$

よって $r_1(1+e\cos\alpha)=l$, $r_2(1-e\cos\alpha)=l$

ゆえに $\frac{1}{FP}+\frac{1}{FQ}=\frac{1}{r_1}+\frac{1}{r_2}=\frac{1+e\cos\alpha}{l}+\frac{1-e\cos\alpha}{l}=\frac{2}{l}$ (一定)

